



為石小学校の合言葉 「ためし 最高! ~地元で学び 地元を活かし 地元とともに行動する子ども~」



学校だより



ためし



○楽しく めあてをもって しっかり学ぶ
○正しく めあてを しっかり守る
○たくましく めあてに向かって しっかり鍛える



令和7年7月4日号 文責 上久木田 雄二



11時3分がなかった命

私は最後の被爆地に生まれ育ち、最初の被爆地で大学生活を過ごしました。

母は6歳の頃に被爆し、がんに悩まされながら72歳で生涯を閉じました。母は、爆風で飛んできた屋根瓦が頭頂部を直撃した影響で、頭に10cmほどの傷がありました。当時の記憶も定かではなかったようです。

被爆の苦しみを思い出したくないと当時の話を積極的にすることもなかったです。

長崎市の統計によると、2024年度末の被ばく者数は、23543人となっています。

前年度から7000人減少していることを考えると、単純計算で、今後3年ちょっとで被爆者は、0になるということです。

被爆の実相を語りつぐ方がいなくなる現実はまだ目の前です。

被爆の継承と平和の創造は、もはや被爆者の問題ではなく、長崎に住む者の使命であると私は考えています。



HPはこちら



二次元コード読み取り 「カラー版は、ホームページでご覧いただけます。」



教育週間中に「被爆体験講話を聴く会」を実施しました。保護者の方にも参観いただき、濃密な時間を過ごしました。

講師の先生には、「為石小学校の子どもたちの話を聞く態度」を誉めていただきました。そのくらい、子どもたちは真剣に講師の話に耳を傾けていました。

日頃姿勢が崩れがちな子どもが、長時間体操座りで聞き続ける姿には私も感動しました。



私が今回の講話で心に残ったフレーズがあります。

11時3分がなかった命

です。11時1分までは確実に存在した命が一気に消え去り、11時3分を迎えることができなかった。当たり前ではあるものの、戦争の悲惨さや原爆の恐ろしさを伝えるのに十分な重みのある言葉でした。ホンモノを伝える・ホンモノが伝わる大切さを痛感しました。